

大川小学校で何がおこったのか（宮城県石巻市） その2

“悲しみは時が解決してくれる”と言われます。しかし、わが子を亡くした親にとっては、悲しみは一生続くのかもしれない。

大川小津波災害 検証委が最終報告 一部遺族 提訴を検討

「東日本大震災で児童と教職員 84 人が死亡・行方不明になった石巻市大川小の津波災害で、第三者の事故検証委員会は 2 月 23 日、児童遺族に対する最終報告書の説明会を開いた。遺族の一部は記者会見で、提訴を検討する考えを明らかにした。

直接的原因は「被難の意思決定が遅く、避難先を北上川堤防付近にしたこと」と報告書案から変わらず、背景に①教職員の知識不足など学校現場の要因②津波ハザードマップや広報体制といった災害対策の社会全体の要因一を挙げた。

検証委の室崎益輝委員長も会見し「遺族からは真相究明が不十分といった厳しい指摘が多かったが、今後の防災につながる重要な点は提示できた」と語った。」

大川小津波災害最終報告 真相どこに 遺族苦渋

「学校管理下で前例のない惨事の検証は、遺族の無念を晴らせなかった。第三者による事故検証委員会の最終報告の説明を受けた児童 7 人の父親たちは 23 日、記者会見で苦渋の表情を浮かべ、失望と怒りを訴えた。

6 年だった三男を失った S さん（47）は「被災地の血税を投じた検証なのに新たに分かったことは何もない。なぜ息子が死んだのかを知りたかったのに、周辺情報の調査ばかりに時間が費やされた」と憤った。

6 年の次女を亡くした S さん（50）は「遺族が調べた情報を提供しても反映してくれなかった。助かった子どもの証言を反映しなかった市教委と同じ」と語った。

3 年の長女が犠牲になり、5 年だった長男が助かった T さん（42）は「息子は『同じことを繰り返してほしくない』とつらいながら証言してきた。専門家が応えてくれず息子に何と言えればいいのか」と表情を硬くした。

3 年の一人息子を失った S さん（52）は「失うものは何もない。責任の所在を明らかにさせるため、裁判に打って出たい」と明言。6 年だった長男を亡くした K さん（52）も「子どもの敵を討つため法的手段も検討したい」と述べた。

5 年の次女を亡くした S さん（49）は「市教委との話し合いで遺族はぼろぼろに傷つき、検証委も思いを受けてくれなかった。3 年がたち、誰が子どもたちの死の真相を説明してくれるのか」と唇をかんだ

6 年だった次女が犠牲になった S さん（49）は「市教委は話すと、それまで明らかになっていなかった事実がこぼれてくる。まだまだ市教委と話し合いをしたい」と話した。」（「河北新報」14 年 2 月 24 日付け）

【児童 74 人・教職員 10 人が津波で犠牲になった大川小学校】



【地震後なぜ 40 分間校庭に避難していたのか、校庭のすぐ裏には山が…】

